



## 自治会主催で、まちかど防災訓練が行われました！

ここ数年の内に阪神淡路大震災のような直下型の大地震が東京でも起きる確率が非常に高いと言われています。もし起きれば、あちらこちらで家が倒壊し、火災が発生します。私たちの住む街角でも起きるかもしれません。しかし、この辺りでは奥沢3丁目に消防車2台(ポンプ車、放水車各1)と救急車1台しかなく、ここまで消火に来てくれるとは限りません。実際には、ご近所の皆さんで協力し合って、火を消し、人を助け出さなくてはならないのです。



そんな場合に備えて、九品仏自治会では消防署、消防団の協力を得て9月15日(土)、**街角防災訓練**を奥沢8丁目、奥沢西公園で実施しました。二十数名の住民が参加して三十人ぐらいで行いました。消火器で実際に火を消してみたり、物干し竿と毛布で簡易担架を作り、怪我人を運び出してみたり、最近話題になっているスタンドパイプの実演や、のどに異物が詰まったときの除去方法の実演を見たりしました。皆さん真剣に取り組みました。大変勉強になったようです。(写真は訓練風景です。)

「今度は園児のお父さんにも参加してもらいます。」隣の保育園の園長さん  
「勉強になった。消火器が街角に置いてあるなんて知らなかった。」近所の奥さん  
「この様な企画をしてくれてありがとう。」消防団員  
「街角防災訓練で大勢の人に真剣に取り組んでもらってうれしかった。」消防隊長  
「大災害の時、自分たちの町は自分たちで守らなくてはならないことをもっと大勢の住民に自覚してもらいたいです。自治会としてもこれからも頑張ります」自治会長 横山昭夫

### 自転車事故を起こさないために

最近、急激に普及した「電動アシスト自転車」は男女共、高齢者(65歳以上)が利用するケースが多く、事故も増えています。一番多いのは、基本的な一時停止と安全確認をしないためと思われる、**出会い頭の衝突事故**で、特に交通ルールに不慣れな「車の運転免許を持っていない人」が事故を起こす傾向があるそうです。他の車両や歩行者と接触して**転倒すれば特に頭部・頸部を損傷し死亡するケースが多く**、ヘルメット着用義務化も検討されています。

一方、主に加害者になる、**対人自転車事故は20代が一番多く**、30代、40代と続き3世代で50%以上を占めますが、**歩道での接触・衝突 無灯火での衝突等**が原因です。自転車も車両と意識して、**基本的なルールを知り、守る事こそが事故防止につながる**のではないのでしょうか。

### 自転車あれこれ

#### 自転車保険をご存じですか？

自転車利用者の増加に伴い、自転車と歩行者の**交通事故**が増えています。自転車利用者が加害者側になったとき、思いもかけない**高額**の賠償金の支払いを求められることがあります。

被害者への賠償金額はどのくらいでしょうか。最近の事例では、死亡や重大な後遺障害に至った事故の場合、**5千万円以上**の高額損害賠償の判例があります。

これらの損害賠償をカバーするものは「**個人賠償責任保険**」ですが、すでに**自動車保険**や**火災保険**、**損害保険**などに加入している人は「**日常生活賠償特約**」といった特約が付いている可能性がありますので、その内容を一度、確認してみましょう。